

ニケリ、

〔古老口實傳〕一神宮恠異事

殿舍上鷺鴉居事略○中 卽注進之處、被行御占、下祈謝宣旨、仰諸社司等御祈禱之間、神宮爲吉也、近代

依无奏聞、不被祈禱、因茲神宮爲凶之由、雅繼光胤神主等申之、

〔百練抄五鳥羽〕天仁二年七月一日、自大炊御門皇居遷幸内裏、是去月廿七日夜、御殿天井上鴉入居之故也、

〔就狩詞少々覺悟之事〕一射まじき鳥の事略○中 鷺、

〔醒睡笑四〕いやな批評

鷺は木にとまりゐて、蘆邊にすむ鷺にむかひ、そちほど色白くいつくしき姿は無し、如何にもものいびがそさうにて、いやしいわといふ鷺腹を立て、そちは鳥の中にも、四十八鷹の内に入て、空をたちまふ風情のよさ、そしらんやうもなきが、物ごしのくどき、ながさきかれぬ、我がごとくこと葉すくなならば、よからんものと、こなしこなされ、かくてはこらへられず、たそに批判をうけん、とおのれくが土産を用意するに、とびは例のくだりたる鼠をもとめ、鷺はかひくしくとびをどる鱈をと、のへ鷺の棲むなる峯に飛ぶ、二鳥の聲を聞き、鷺はいかさま言便みじかく當風にあへり、鷺はなにとやひいまでにてよからんものを、後のりよくが長過ぎて聞かれぬ、古流なりとかくまけよくと、

〔松屋筆記六十三〕朝鷺に笠を脱

俗言に朝鷺に笠を脱として、朝に鷺鳴時は天氣よしといへり、續博物志二一丁に、暮鳩鳴卽小雨、朝鷺鳴卽大風とあり、風吹ば必天氣よし、故にいへる俗語なるべし、

〔新撰字鏡鳥〕鴉伊比止、與又、與太、加、

恠鷺